

平成23年度 近事研学校事務セミナー報告

「新学習指導要領と学校の情報化について」

岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 石原一彦様



平成24年2月28日、京都タワーホテルにおいて、近事研学校事務セミナーを開催しました。講師には、滋賀県の公立小学校教諭時代から現在にいたるまで、情報教育の第一人者としてご活躍されている岐阜聖徳学園大学教育学部教授の石原一彦様をお招きし、「新学習指導要領と学校の情報化について」という演題でご講演いただきました。当日は150人ほどの参加者がありました。

学校におけるICT環境の整備状況(校内LAN整備率、高速インターネット接続率、電子黒板普及率等)や教員のICT活用指導力についてのデータが、都道府県別に表やグラフでわかりやすく示されました。近畿の現状と課題が表されていました。事務職員として、学校のICT環境整備にもっとリーダーシップを発揮していかなければならないと思いました。

これからの情報教育はコンピュータ室だけで行うのではなく、公衆無線LAN等を用い、普通教室で情報端末などを使って学べるようにしなければならぬとのことでした。実際にすでに端末が学習に取り入れられている事例を教えてくださいました。



教科におけるICT活用例(デジタルコンテンツ例)も紹介していただきました。書道の運筆の指導、家庭科や体育の実技指導に利用されている画像に惹きつけられました。

新学習指導要領では、各教科に情報活用能力育成のための学習活動を盛り込むという「ミックスジュース方略」が掲げられています。各教科をしぼって混ぜ、情報活用能力というミックスジュースを作るというものです。また、小学校から中学校・高校と、情報教育の役割が明確化され、系統性の確立が謳われています。しかし、各教科における具体的な指導方法は書かれていないため、情報教育と他教科との乖離(かいり)が生じてしまっています。「次の学習指導要領では、外国語活動と同様に情報科の時間が確保されることが望ましい。情報教育における学校間の温度差をなくし、全ての子どもに情報活用能力を育てなければならない」と話されました。

子どもへの「情報モラル」教育は不可欠です。情報倫理とともに情報安全(セキュリティ)をしっかり伝えなくてはなりません。子どもに情報社会を正しく生きる力を身につけさせるためには、ブレーキをかけトラブルを避けるためだけの教育ではなく、紹介していただいたビデオ教材「春野家ケータイ物語」のような、情報の特性をきちんと伝えた上で自ら考えさせる前向きな教育が必要なのだとわかりました。

東日本大震災を受けて、有害情報を見極め有益情報を発信する、真の情報活用能力が問われています。競争ではなく協同学習を進め、子どもたちに困難に立ち向かう力をつけていくこと。そして、学校がいつ避難所になってもいいように、災害対応ができるICT環境の整備と情報安全を含めた防災教育の必要性を感じました。

<文責：角石 秋子>

